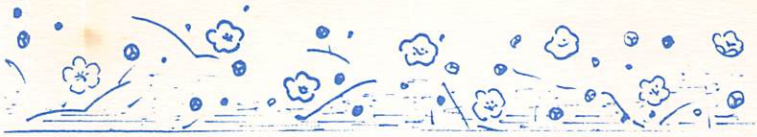
香葉

1970　　NO.1



香　葉　　第　1　号

関東学院同窓会会誌

目　次

「香葉会」誕生まで ……古城　房子　1
創刊に寄せて ……林　淳三　2
発刊に当りて ……加藤　亮三　3
諸先生方のご寄稿のページ ……6
香報室　(卒業生のページ)……14
覚え書(一)－女専・短大小史－ ……上市　二郎　12
各科だより ……22
母校ニュース ……24

【専任教職員氏名・リトリート・クラブ・短大祭】

設立総会報告 ……3
新幹事紹介 ……5
評議員氏名 ……27
ご案内

相川　高秋先生感謝の集い ……4
坂田　祐 先生追悼講演会 ……27

紹介欄 ……28
編集後記 ……28

表紙……関　頼武氏　　カット…青木千恵子

「香葉会」誕生まで

会長　古城房子

卒業生の皆様、お元気ですか。

短大が創立二十年を迎えた時に、ここ数年来の懸案であった「関東学院女子短期大学同窓会」を新たに発足させることができましたことを、皆様と共に、大変うれしく思っております。十年程前、女専短大卒業生の有志が集まりまして、会員も年々多くなっていることだし、一つ私達だけの同窓会を作ろうではないかと話しあい、当時から燦葉会の会長でいらした加藤氏にご相談したところ、女専短大の卒業生は大学同窓会の燦葉会の会員であるので、あくまでも支部活動にとどめてほしい、そのかわり、活動費の援助はする、というご希望でしたので、その年に支部として認めて戴き、以来毎年、予算を戴いて支部活動をつづけてまいりました。しかし、年々ふえる卒業生を迎えて会員数も三千数百名をこえるようになり、事務的にも財政的にも、燦葉会と合同では不便なことが多くなってきましたので、関東学院合同同窓会の発足を機会に分離独立を申し出ましたところ、燦葉会幹事会も、心よく認めて下さいました。合同同窓会は、燦葉会、かんらん会、六葉会、香葉会の四つの部会で構成されていて、高梨会長、水野幹事長の下に、各部会の会長が副会長（四名）となり幹事五名をおくりこんでおります。香葉会の独立に際しては、林学長はじめ上市事務長、学内の方々に大変なご努力とご援助を戴きました。四十五年四月から事実上の独立活動を始め、六月二十八日の設立総会で正式に発足し、念願であった会誌を皆様のお手元にお届けできる運びとなった次第です。長年同窓会を助けてきて下さった学内の先生方、事務局の方々、卒業生の皆様方に心からの御礼を申し上げますと共に、今後のご支援をお願い申し上げます。

さて、微力ながら、会長の任をお受けすることになったのですが、沢山の有能な先輩、新鮮な意欲あふれた後輩をさしおいて、こういう羽目におち入るに至ったのには、先ず、学校に比較的近い所に住み、亭主の仕事の性質上、先ず夜逃げ以外移動がなさそうで、昔から今までの歴史を知っている程年もくっているという物理的悪条件が重なった上、いつも、暖かく協力して下さる林学長、小娘時代からのおつき合いで会の成長と苦労を共にしてきて下さった上市事務長には頭が上らず、引退の期を逸した形です。大変忙しい主婦稼業の片手間仕事では、どれ程の仕事が出来るか責任を重く感じますが、委員会の推薦で優秀なスタッフを揃えて下さって、これからは、名目丈の会長として納まっていてもよいということで、それには、いささか貫録不足であったワイと自己反省しております。今後両手、両足となって下さるスタッフ諸氏を後にご紹介いたしますが、会員の皆様の自薦他薦による評議員会参加をお待ちしております。「香葉会」総会には、ぜひお出かけ下さい。

創刊に寄せて

——短大の展望——

学長　林　淳三

最初にあたり、女専、女子高、短大の同窓会である香葉会の発足と、その機関誌が創刊される運びになったことをお祝い申しあげたい。

私が三、四年前、歴史ある本学の教員を拝命して、同窓会のことでまず不思議に思ったことは、関東学院には合同同窓会のもとに各校が同窓会をもっているのに、女専に端を発して出来ている短大の同窓会が燦葉会の支部形態をとっていることであった。しかし、このことは同窓会自体の問題であり、私ごとき新参教員の申し述べる筋合いでもないので具申しなかった。それが今度卒業生の皆さんの総意で燦葉会から円満分離し、香葉会となり、独立した同窓会として合同同窓会に参加するようになったことは、現在の短期大学が学校法人関東学院内にある位置と一致し、誠に喜びに絶えない。これには、創設に尽力された香葉会役員の皆さんはもとより、現燦葉会役員諸氏の深い理解があったことと思う。ここに両者の諸兄姉に感謝申しあげたい。

しかし、このようにして苦労して独立した同窓会も卒業生の皆さんの協力がなければ有名無実となる可能性がある。もっとも卒業生の大部分の皆さんは家庭婦人であることから、遠隔地やその他の事情で会合などに直接参加することが出来ない方も多いと思う。しかし、常に香葉会に関心をもって頂き、間接的にでも参加することにより、役員の努力が単なる空転に終ることなく、本会の目的達成に協力を期待したい。

次に現在の学校の状況と将来のことについて述べてみたい。私が何時も関東学院女子短大について自慢することは①教員の平均年令が若く、しかも優秀な先生の多いこと、②職員の年令層も若く、事務機構が整備されていること、③学生数が増加（現在約八〇〇名）しても四〇名の小人数クラス制を守っていること、④学校運営も民主的に行われ、学生教職員とも明るい雰囲気にあること等である。そしてその上に関東学院の建学精神がある。実際、私自体いろいろな大学や短大に勤め、また見聞きしているが、これほどよい学校は少ないのではなかろうかと思う。今後もこのよき伝統を守り、しかも時代に適応する改革を徐々に加えながら発展することであろう。

校舎、設備については一応ととのっているが、ただ残念なことにはグランド、体育館、図書館などが大学または中高と共用するものが多く、授業またはクラブ活動にしばしば支障をきたすことである。短大専用のものを建てようにも現在の短大校舎自体が、大学の敷地の片隅に押し込められた状態で、土地が無かった。そこで今度、小学校に隣接する宣教師住宅用地、通称ハンソン山を削って整地し、まず、体育館を建設する準備をしている。将来は短大の校舎を同敷地に逐次移し、やがては平潟湾を眼下に臨む学校が出現し、卒業生の皆さんにわが母校と誇り得るものとしたい。

どうか御期待、御協力をお願いする次第である。

発刊に当りて

燦葉会会長
加藤亮三

香葉会の皆さん、この度香葉の創刊号が発行されますことに心からお祝いを申し上げます。

永い間燦葉会の短大支部としてご協力下さいましたことを感謝致します。これからはお互いに独立部会として、関東学院同窓会に力を尽して参りたいと思います。

女子短期大学も創立二十年を迎え、いわば成人されたわけで、その間、科の増設に伴い、年々学生数もふえ、卒業生も三千人を超える立派な同窓会に生長されたので、燦葉会から分離問題も極めて自然の形で、評議会でも総会でも賛成承認されまして、燦葉会長として洵に喜びに堪えません。私は常々申していることですが、同窓会は母校を中心にした外郭の親睦団体で、縦横の線、つまり同級生同志、先輩と後輩、又各科の卒業生がお互いに親しみ合い、社会生活に於て助け合える特殊の団体でありまして、会長初め役員の方々はこの交誼機関としての実を挙げるようお骨折なさるわけですから、会員の皆さんはこの点をよく認識されて、一人一人が自発的に凡ゆる機会を活用して、会の発展と、合せてご自分の生活にもプラスになるようにご協力されますことを心から希望する次第です。女子の方々は、ご卒業後間もなく家庭の主婦になられる方が多く、家庭外のおつき合いは意にまかせないことが多いかと思いますが、それだけに又たまの会合など心がけ次第で一段と楽しいものになるのではないでしょうか。

事実、今迄の短大支部時代の会合に私もお招きを受けており、ご計画がよいためか、いつも盛大で楽しい集りであったことを思い出します。これからは一層ご発展なさることを祈りつつお祝詞とご挨拶を申し述べ擱筆致します。

設立総会の報告

四十五年六月二十八日（日）午後一時より短大館学生ホールに於て二十名の先生方、職員諸氏、六十九名の卒業生を迎え、独立第一回の総会を開きました。今年は、短大創立二十年にあたり、同窓会が燦葉会から独立し、始めて一人歩きを許された年でもあり、記念すべき設立総会となりました。

先ず中根悦子姉（専英1）の司会で礼拝を守り、次いで支部長出栄美子姉（専英2）の司会で四十四年度の事業報告、会計報告旧役員辞任の挨拶の後、副支部長古城房子姉（短英1）から、同窓会の独立発足迄の経過の説明、報告があり、牧美千子姉（短英二15）の司会で新しい会則案、予算案の審議承認、今年度役員の選出同窓会名称の決定が行われました。会の名前は十余りの案が出、アンケートその他で一年以上検討され、投票数最高の「香葉会」に決まりま

した。二部は先生方と卒業生の交歓を中心に親睦が、平塚圭子姉（短英二15）によってすすめられ、四時に散会しました。毎年六月上旬を総会に予定しておりますので、おさそい合わせの上是非ご出席下さい。

〔写真は、短大同窓会「香葉会」の設立総会風景〕

×　×　×

短大同窓会予算

（自昭和45年4月1日
至昭和46年3月31日）

摘　　要	収　入	支　出
会　費 340人 @2,400	816,000	
寄付金	2,350	
雑収入	0	
合同よりの援助金 @1,000　340人	340,000	
総会費		70,000
集会費		40,000
通信費		40,000
交通費		10,000
事務印刷費		50,000
新入会員歓迎費		42,000
その他雑費		26,350
予備費		20,000
事業費		350,000
合同分担金 @1,300　340人		442,000
基本金勘定へ繰出 @200　340人		68,000
合　　計	1,158,350	1,158,350

相川高秋先生感謝の集い

女専の校長として、短大の学長として長期間お骨折りをいただきました相川先生が、明年三月末日をもって、定年を迎えられることになりました。（尚　従前通り教鞭をおとり下さるご予定です）この期に及び、ささやかですが、感謝の会を下記のように開きたいと思います。多数お誘い合わせの上ご出席くださいますようにご案内いたします。

記

と　き　　4月25日（日）午後1時30分

ところ　　関東学院女子短期大学

新幹事紹介

○副会長・**西村恵子**（短家4・旧菅野）

学生時代は学友会で活躍、同窓会でも支部長をつとめ、その実力は保証ずみ、学院六浦小に在学中の二児のママ。学生時代から相思相愛で結ばれたご主人の良き理解と協力を得られて副会長を引き受けて下さいました。

○幹事長・**相吉典子**（短家10・旧後藤）

卒業後二年、家政科の助手を勤めた後、鎌倉の聖ミカエル学園に奉職、当時相吉教頭、現校長にみそめられて、現在校長夫人。

教鞭もとる現役で、私学の経営も助けて公私共に文字通りのベターハーフ。傍、支部の会計・書記の任も果たす……、そのファイトと実践的な意見で大いにリードして下さいます。

○副幹事長・**新海浜子**（短英13）

英文科ラボの副手をつとめ、謙虚でひかえ目。外見は柔らかいが、骨があり、信頼がおける。事務処理の完璧さ、無駄のなさ、その手腕に期待をかけています。

○学内幹事・**益川良子**（短国1）

国文科研究室の副手をなさっています。とても大人しそうに見えるが芯は一本通ってしっかりしている。下らないお喋りなど全然なく、非常に信頼感がもてます。

○学内幹事・**松林朝子**（短国2）

庶務課の看板娘。上市事務長のお眼がねにかなって引き抜かれた丈あり、お顔もお人柄も可愛らしく清潔で誰にも好感を持たれ同窓会の雑務を気持ち良く引受けて下さる方。

○幹事・**御園和夫**（短英二13）

英文科教員、女の園の中の20才台の男性といえば花嫁候補物色中とみますが、ご当人はもっぱら独身を楽しんでいるご様子。江戸前の歯切れのよさと、すてきな低音にその講義さぞかし人気が有るのでは…。会誌「香葉」の編集長としてご尽力下さいました。

○幹事・**伊藤精彦**（短英二3）

自家営業でお忙しくしていられる方ですが、皆の兄貴分を一手に引き受け、実社会の体験を通して貴重な意見を提供して下さり、長年幹事として会を助けて下さっています。

○幹事・**小島美洪**（短英二7）

横浜市大の図書館に勤務。外見が優しいので、一見頼りなく見えるが、女性軍の黒一点となって、会計、書記をやって下さり、時々ボソッと出す意見に教えられて、大黒柱として頼っている。新会則の原案作成の功労者。

○幹事・**石田禎子**（短家1・旧岩井）

六浦高校の石田先生の奥様。学生時代は家政科の代表的存在、学友会でも活躍し先生方の片腕でした。幹事会では、しっかりした意見で引きしめて下さいます。

○幹事・**青木千恵子**（短英2・旧小松）

学校の内外を問わず有名。支部発足当初からご尽力下さっている、多趣味で、八面六臂の活躍、夜の会合にも必ず出席して下さり又会誌の編集、カット……と貴重な存在。

○幹事・**細田昌子**（短家18）

卒業以来、被服の副手をつとめています。性質は温順、明朗、几帳面と、公私共にこの良さを発揮していただけると思い期待します。

その他に、各卒業年度から評議員が出て、委員会の運営をしています。（古城房子）

本誌を創刊するにあたり、先生方にもご執筆いただきました。今回は創刊号でもありますので、女専時代のゆかりの深い先生方のうちより、また、古くから現在にいたるまで短大に奉職して下さっている先生方のうちから、次の先生方にお願いいたしました。「会誌発行にあたって」、「回想」、「近況」、その他をテーマにして執筆をご依頼いたしましたところ、各先生とも快よく引き受けて下さり、このようなかたちで原稿をお寄せ下さいました。いづれも各先生の人柄がにじみ出ており、卒業生の私達にはとても親しみのあるものばかりですね。なお、掲載順序はＡＢＣ順です。

初心

香葉会顧問　相川　高秋

その頃は、私もまだ四〇才前後の若さだったし、日本が敗戦の廃墟と混乱の中から立ち上ろうとしていた時だったので、私達には黄金の夢のようなものがあった。窓には硝子がなく、ストーブもない教室に、ヒラヒラと粉雪が風にのって舞い込んで来ることもあったが、私達は希望を失うようなことはなかった。新しく始められたこの女子高等教育（当時は関東学院女子専門学校と称せられていた）が、新しい女性をどんどん育成して日本全体を変えていくのだとさえ、ほんとに私達は信じていたのである。事実、東京女子大、津田英学塾等のベストレベルの有志学生達と、東京でもった英語の討論会においては、関東学院女専の学生達が、群を抜いて個性的であり、広く高い教養をもっているとの評判を得た。もっともその頃は、現在の安沢夫人、在ブラジルの酒井夫人、その後ミセス・リーディとなった田中実子、所沢の内田夫人といったような錚々たる第一級の才媛が肩をならべて在籍していたのである。

そのような夢をもった学校だったので、当時としては極めて斬新な試みが、校の内外に向って色々となされたことは言う迄もない。日曜毎に公開された婦人教養講座には、毎回数百人の一般市民を有料で集めることが出来たし、この講師の中には、本多顕彰、大内力、岩上順一のような著名な人もおり、ドストエフスキイの講演には、米川正夫を引っぱり出そうとして杉並の自宅を私自身で訪れたこともあった。

青山学院の女専と定期的に運動全般の試合をもったこと、ミセス・タッピングの指導の下にレクリエーション・クラブが創設され、フォークダンスや米人青少年との交歓会が始められたこと等も、当時の活躍を思い出させる、よいよすがである。現在では横浜名物の一つとなったシェイクスピア劇も、この学校で始められたものであって、第一回は、雨もりのする屋内体育館で、カッラの代りに、ふろしきをかぶって始めたものである。

私立学校の特質が次第に失われて、凡てが画一化されていくのは、この十年以来の全国的傾向であるが、生々とした当時の学校群と全く平凡化された今日の学校群とを比べてみると施設においては雲泥の相違があるとしても、一沫の淋しさを感ぜざるを得ない。

更に重要なことは、ミッション・スクール（これは余りよい呼称ではないが、当時の雰囲気を伝えるには、この方が基督教主義学校の呼び方より良い）の伝統が、生命の源たることから、何か重荷のようなものに変って来たことである。クリスチャンの少ない我国でこのように多数なクリスチャン・スクールをもつこと自体が大きな疑問ではあるが、この根本的な問題は、学校の側にあるのか、基督

教の側にあるのか、ここらで深く考えてみなくてはならぬと思う。只一つ言えることは、初心忘るべからずということであり、伝統から切り離された学校は、地下水の枯渇した土地に生える大木のように、その寿命は既にはかられているということである。

安藤　寿々代

長年の宿望であった短大同窓会が、この度役員皆様のお骨折りで香葉会として発足し、会誌を発刊される由衷心よりお喜び申し上げます。この短大が女子専門として開学以来約二十五年、多くの卒業生と苦楽を共にして来ました私にとっても非常な喜びであります。今まで何か卒業生との関係が漠としておりましたが、やっとここで一本のパイプで永久に結ばれたと云う力強さを感じます。

学院と共にして来た長い年月を振り返って見ますと、その底辺にあった幾多の苦労は何時しか消え去って、実に楽しかったとのみ思い返されます。女専初期の合唱コンクール出場・優勝、ユールギデオンの名のもとに行った東北音楽伝道旅行、九州、北海道への見学旅行、毎年のリトリートにおける交り、アドグルの交り、そこにはなつかしい先生方学生方が思い出と共に私の前をゆっくりと、又かけ足で通りすぎてゆかれましたが、どの方々にもなつかしく手を振りたい思いで一杯です。そして再会の時には暖かく触れ合える心、堅く握り合える手なのです。特にうれしかったのは、昨年のクリスマスシーズンに久方振りに私共のフラウエンコール研究発表をシルクホテルで開催した折、女専一回生から現在の学生までの巾広い同窓生、先生方のご参加を得た事です。全員で歌うクリスマスキャロルを指揮しつつともに歌いながら感激の余り涙する思いでした。

昨年の暮、大関東の厳父であられた敬愛する坂田先生を失い、大切なものが一本抜けた淋しさを、どんなにこの度の香葉会発足によって慰められた事でしょう。

最近もうお母様になられた卒業生の数人が〝又歌いましょう〟と私の四階の研究室に上って来られます。卒業生の皆様私はまだ元気で愛する関東学院女子短期大学におります。そしてエビス様、キューピットのニックネームを持つ林学長始め諸先生、何時も変らぬ上市事務長と事務の方々と共にお待ち致しております。どうぞお訪ね下さい。そしてこれからますます地道に発展して行く母校のために共にお祈り下さい。

最後にこの香葉会の発展が、さんよう会、かんらん会の発展に寄与するものとなりますよう願って止みません。

檜垣　好子

私は関東学院女子短期大学と共に早くも二十年の月日を歩いてまいりました。特に家政科はあわれな状態となって消えかけた頃のことを思いますと、ほんとうによくここまで歩いて来られたものと感慨無量です。しかし、これは神の導きと、同窓の皆様方のはげましと、諸先生のご奮斗とによる賜です。今では押しも押されもしない堂々たる短期大学となって、特に家政科は素晴らしい発展をし、よき女子教育の機関となりました。これはまことによろこばしく誇らしいことと存じます。世の中は種々大きく変化してきております。これからも又変ってゆくことと思います。そして私共の仕事にはますます重大さが加わりましょう。この時に当って本学はよき奉仕をし、よき指導力を蓄えねばならないのではないでしょうか。特に家政学は人間生活の基礎である問題を担わねばならない学問なので

す。つまり変動の世に対処して誤りなき人生を築く開拓者であり、燈明台でなければなりません。この意味でこれからは意味の変ったいばらの道を切り開き新しい使命にのびなければならないと思います。私は、今までこの基礎の確立にはげんでまいりました。次の時代はこの上に、新しい内容に充ちた素晴しい発展をしてゆくことです。そこで同窓の皆様と共にこのために祈りましょう。私の願いは関東学院の底流には、神の支えのあることを信じ、聖名のためにとの思いを持って頂きたいのです。

コリント人への第一の手紙一章三十一節にある「誇る者は主を誇れ」とのみ言葉をかみしめて下さい。

兵藤　正之助

香葉会誕生めでたし。

卒業生相互の親睦さらに促進するものとなるらむ、と思い、かくは申す次第。

されど、一言。いつもテンテン働きまわって忙しくしている役員の顔ぶれに変りなきはこの際、一考されてよいのでは？

もう短大の卒業生も三千名になったそうだが、ほんの数名の人々に会の運営をまかせっばなしでは、その人々が、少し気の毒だ。やっぱりダンナさんも子供もいる方々なんだからね。たとえば短大第一回の卒業生の古城さんなんか、もう十年近く幹事やってるんじゃないかしらん。よくあれで、離縁されないなと、不思議に思うくらいだ。まだまだ卒業生なかには、ツワモノ居ること、ぼくよく知ってる。この機に新味を出す意味からも、長年の役員をバックアップする人の出てこられること、要望したいね。

まま、のっけから、もんくばかり並べて失礼。ぼくも短大に来てから、もう二十年になる。むかしよく話したことだが、「卒業生の子供を短大にむかえるようになったら、おれたちのもう人生も第一巻の終り近いな。そうなったら、ぼく世をはかなんでしまうよ」とかなんとか言ったものだが、最近三春台時代の卒業生と会って、そろそろその「世をはかな」まねばならぬ時が間近いらしく、いささかにヒトノヨノウツロイの早さを痛感しとるてのが、ぼくの近況なり。でもまあ、少し考え直してね、いっちょう、そうなったら「お前さんのお母さんは、いかに、ケンメイに短大生活をやりしか」について、その娘さんたちに話してやろうかしらんと思っている次第「そいつわ、コマルワ」としりごみするむきもあるかもしらんが、まま、そのあたりは、まかしといて、どしどし、よこしなされ。母娘二代のヨシミってこともあるからねえ。

てなこと書いてたら、もう紙数なくなりにけり。みんな、元気で、やってたもれ。

門根　静子

十月の初めに、短大専用の体育館建設予定との朗報をおききいたしました。

私は今年も秋から冬への移りかわりの静かな時を健康で迎えたことをよろこび、この大好きな季節感を嚙みしめるように味わっております。何処までも続く青い空の見える日が少なくなってはおりますが、しっとりとした味わいはまだ残っております。

三春台から六浦移転を最後に、また捜真に戻って参りましたが、あの頃の卒業生のお嬢さんが中学に入学し、高校生になりました。お母さん似の面影に接していると、ふっと年月の流れが消えてしまうことがございます。私は今でも好きな山に、スキーにと出かけております。手ほどきした若い人たちがどんどん上達していきますが、まだ足手まといにはなっていないだろうと自負して同行しており

ます。でもそう長くは続かないだろうと観念し、そうなったら孫でも連れて行きましょう。只今五ヶ月経った女児で、時折やって来ては私の生活を乱して帰ります。

ところで、年令的に完成期にある短大生に専用の体育館はほんとうに必要であり、本当に素晴しいことと感じております。そして学校側がきっと同窓生の方たちにも使用できることを考えて下さるでしょうから、特に三春台時代の方たち――臆さず見るスポーツからやるスポーツに――大いに利用してお腹の脂肪をとって、何時までも心身ともに若く美しくあって下さい。

学校の限りないご発展と皆様のご健康を心からお祈り申上げます。

回想と近況

小滝　奎子

今は昔、私が大学を卒業したばかりの頃、自分自身がろくろく何も分らないまま、しかし夢中で頑張って、何とか教壇に立っていた頃、思い起すと何とも云えぬなつかしさと可笑しさがこみあげて参ります。今とは比較にならぬ不自由の中で、喜々として学んで居られた皆様の明るいお顔、一人一人のお姿が浮んで参ります。

あの頃からもう二十年以上も経ちました。私も三十三年頃に一応退職し、ロンドンやら関西やらに行っておりました。昨年再び、今後は大学の文学部に戻りまして、今年から短大も非常勤で少し教えさせて頂いて居ります。前回には妹のようだった学生が、今度は娘のような工合で、時の経過が思われる次第です。

でも昔も今も変らないのは、この短大の学生が、何時ものびのびと誠に屈託のない事です。私自身、御存知の通りあまり思い悩む方ではありませんので、この傾向、至極結構な事と、ひそかに喜んでいます。

この頃、私は現代の英国文学をやっていますので、研究の対象が、神のない現代の苦悩のがれようのない被圧迫感といったものの中に、とっぷり浸っているようなわけなのです。そこで時々短大のリトリートの話とか、讃美歌の合唱などを聞きますと、どこかになつかしいふるさとがあって、そこではのびのびと神を讃え歌っているのだと、心が満たされる思いが致します。

短大の諸先生、卒業生の皆様、どうぞいつまでもお元気で。

三春台時代

中居　静枝

女専設立の翌年、私は家政科の専任として赴任することになったが、最初の一年は教えることの外に教務を与えられ、実に多忙な生活を過ごした。勉強時間を望んでいた私は、相川先生にお願いして、現在の上市先生が教務主任としてご奉仕下さることになった。併し、私の仕事は教務をお譲りしたかわりに宗教活動が廻って来た。当時の女専の学生さん方は昭和二十三年に女子高が併設されて入学された方々をも含めて自発的に宗教活動に活躍された。対内的には宗教強調週間に幾多の講師をお招きして講演をうかがい、続いて座

談会に移り、親しく講師を通して質問にお答頂いた。三春台当時の卒業生の皆様はご記憶の事と思いますが、その時の講師の先生方は、故鈴木正久牧師、故山北多喜彦牧師、故河井道子先生、平山照次牧師、植村環牧師、宮城春江牧師、永沢ふさ子牧師、武田清子先生、山室民子先生、平野恒子先生等であった。宗教部の役員でもあり、又盛んであった聖歌隊の中には時田先生のお嬢様方お三人がおられ、又当時英文科の教授であられた故安村三郎先生のお嬢様もおられた。この宗教活動の中心としてご援助下さったミセス・タッピングのお名前を忘れることが出来ない。あるいは講師の接待に、そして時折、宗教部の学生達を招かれてご自宅の緑の芝生で美しい聖歌を教えて下さった。又対外的には社会事業への慰問、特に忘れられないのは訓盲院の子供達との交歓会であった。女子高の生徒は市内五校のミッションスクールの生徒等と共に、一年に一度各々当番校となり、講師を招いて各校とのキリスト教の研究又親交を共にした。そんな時には今の霞ケ丘教会が会場となっていた。二十八年に私は家政科が六浦へ移転と共に、英文科家政科学生十二名のルツ寮の第一代目の舎監として、今の図書館側の寮で学生と寝食を共にすることになった。

天城の秋

柴　三九男

この秋はまた天城山荘に行きました。近頃はワサビ栽培も変って、新しい試験所が浄蓮の滝の上手にでき、ワサビの新種を畑地で試験をしています。しかし、公害もこの天城路まで押しよせ、今年は根の黒くなる病害がおこり、道がよくなって自動車がひっきりなし、その排気ガスのせいだろうといいます。それでも、久しぶり二人の、もう就職内定の学生たちと浄蓮の滝まで下ってみました。水量も豊富で、昔のまま白い水煙、濃緑の滝つぼの色。路傍のワサビも浄流に育っていました。つれの一人は、生のワサビ一本をお土産にしました。上の茶店の仔熊の姿はなく、鉄のカゴだけはそのままです。今年リトリートの主題は「門」、ジードの「狭き門」をわれらは読みました。

山荘の奥の大講堂はやはり静かで、自動車の音もせず、狩野川のセセラギがするだけです。この春もみたセキレイは秋には姿をみませんでした。いま二人の子供となった若い卒業生が、山荘でシャクナゲをスケッチしているのを覚えていると便りにありましたが、シャクナゲは大講堂の辺りに小さいのが少し残るだけです。あれほど美しかった紅いヤマツツジも姿を消しました。七月の教職員研修会で毎年みた紫のアジサイも、あまりの美しさに挿芽に持帰った先生もありましたが、これも少くなりました。木造だった本館もいまは新らしく完成し、ラウンジは立派です。折あれば、ベタニヤの家にでもグループで再訪をおすすめしたいものです。

KMG会の誕生

園部　治夫

丁度七年前の十一月のある土曜日の夕方、いつものように二部の授業に出校するため、八景の駅からバス停へ急いでいた時、突然後から声をかけられた。「先生、そのお身体で大変でしょう。車を頼みますから、乗って参りましょう」と。それは女子学生二年のIさ

んだった。さぞ痛々しい姿で歩いていたのだろう。ふとした不注意で第一腰椎を骨折して、約半年間、上半身を重い、硬いコルセットで武装したまま、教室へ通っていた時、このように学生から親切に車を提供されたのは始めてのことであっただけに、その暖かい心遣いは忘れられないものとなっている。Iさんは、厚木基地の米軍教育部図書館の司書をしている傍、勉学に励しむ学徒であった。長年実地で鍛えた語学の実力はクラスでも一際目立っていた。筆者担当の英作文の宿題は毎週欠かすことなく、しかも、最優秀の回答を提出していた。卒業後更にMG大学に編入し、在学中奨学生に選ばれ、ホープカレッジの夏期セミナーに参加した。学部卒業と同時に米国某大学の日本分校の講師となって在日米人の指導に当っている。彼女と同じように、当短大よりMG大学及び大学院へ進学して英米文学を専攻した者は、筆者が両校に関係したこの十二年間で三十名近くにのぼった。しかもそのうち二十名近くが二部よりの進学者である。本短大二部が閉鎖される年の最終学年のクラスからは実に三名の優秀な学生が編入した。それを祝い、又励ます意味をもかねて、先輩格のK君――某大学の助教授で母校短大に出講している――と、M君――昨年大学院を修了し、引続き母校短大で教鞭をとっている――のきも入りで二部卒のMG大編入者の会を開く運びとなり、これをKMG会と呼称して既に二回の例会が開催された。この会員のほぼ半数は中、高、大学の教壇で、今は廃止されてしまった短大二部の卒業生を代表するにふさわしい教育者として、又たゆまざる努力を続けている学究徒として、その面目を充分に発揮している。このようなたくましい、着実な歩みを見守ることは誠に頼もしい限りである。

回想と近況

時田　信夫

昭和二十年八月十五日の終戦日から間もなく、関東学院と捜真女学校との復興計画が立てられた。故坂田祐先生は両校の責任者を兼務しておられたので、両校を合併して名称だけを保存し、関東学院は男子、捜真は女子のみの中学と専門学校をつくろうとされた。しかし捜真がこれに反対したので、関東学院女子専門学校が創設されることに決定した。昭和二一年に女専がスタートし、学制改革によって二五年四月から短期大学になった。

私は女専、女高、短大で、英語、聖書、教育などを教えたが、愉快な思い出に満ちている。特に忘れられないのは相川部長が米国に留学中に、三春台から六浦に移転した時のことである。文部省の視察係の人が、短大の建物の貧弱なことに驚いておられた。しかし教授団の整備している点では全国有数の立派な短大であると云われた時にはうれしかった。あの当時と比較すれば、現在は設備も教授団も充実している。私は関東学院大学教授であるが、毎週一日だけ短大に出講している。今回、叙勲の栄誉を与えられたが、私としては「精勤賞」として感謝している。現在は短大に、第二部がないが、夜の学生はよく勉強したもので、短かい時間に充実した授業をしたあの頃がなつかしい。私は捜真女学校理事長も鵠沼教会牧師もしている。社会事業「ゆりかご園」の理事もしている。感謝している。

柳生　直行

先日何年ぶりかで光畑愛太先生が拙宅に見えられ、むかしの短大時代のことを語り合いほんとうに懐しい思いでした。先生は七十四才になられたそうですが相変らずお元気で、

毎日欠かさずアイス・スケートをやっておられる由、また最近はフランス語に凝ってロマン・ロランを原書で読んでおられるそうです。お変りになったことといえば、このごろはあまりコーヒーをお飲みにならないとか、ご一緒にスキーに行ったときなど、濃いコーヒーを大カップで何杯か飲まれて、それでもたちまち例の大いびきが聞えたものでしたが。

かくいう私も、むかしとはだいぶ変ったようです。最近めっきり白髪が増えてきて、久しぶりで会う人たちを驚かせています。

シェイクスピア劇は、大学紛争のため昨年は中止しましたが、今年は「夏の夜の夢」を練習してまいりました。実は十一月十七、十八日の両日がその公演の日でした。本誌がもう少し早く出たらよかったのにと思うのですが、宣伝活動が不十分で申し訳ありません。私にとって一番の楽しみはシェイクスピア劇の卒業生たちに会うことです。正月にはいつも二十人くらいがコブ付きで来てくれますが、なんとなく孫たちにかこまれているような気持です。その楽しみのためにこれからも学生たちをどなりながらシェイクスピアを続けて行くことでしょう。

覚え書（一）

——女専・短大小史——

上市　二郎

香葉会々誌創刊号発刊に際し女専より短大の歩みについてご依頼を受けましたが、今回は古い先生方も多数この号に筆を寄せられておりますことと、私が過去に燦葉会誌で機会ある毎に述べたこととは異った形、即ち年代順に記憶を追って断片的に記してみました。

終戦を迎え、学院の幹部は女子教育に力を入れることに決意し、相川高秋氏を校長に、昭和二十一年六月一日女子専門学校第一回入学式が挙行され、英文七七、家政六〇、予科二四、計一六一名をもってスタートしたのです。三春台の丘は鉄筋の校舎が一部あるのみで総べて見通しのきく焼野原、その中で校庭より夕日に映えて富士山が見えたのが印象的でした。女専発足と同じ頃、戦後の殺伐とした社会で生活する婦人達に教養を植えつける目的をもって奉仕されたのが婦人教養講座で、毎週日曜日の午後開かれ、聴講生も百余名を数える盛況だったと、当時の記録は示しています。また、その頃は夜間の英語学校が存続していたので、戦後の英語ブームに乗って満員の受講者で教室は立錐の余地も見出だせなかった程です。七月に入ると早速夏期講習会が昼夜に亘り開かれ、この夏期講習会の歴史は長く、英語学校廃校の後も短大に引継がれて昭和三十九年頃まで毎夏開かれていました。その年の十月には婦人教養講座にならび家庭科学講座が開かれるようになりました。この頃〝三春タイムス〟という学校新聞が創刊されて、各号に教授のプロフィールが紹介され、M教授をライオン先生とか、ある号では今も短大で活躍しておられるS教授をデスネティーチャーとして、デッサンとともに載っていたことは忘れることができません。

翌二十二年一月には、新学制々度（六・三・三・四制度）の問題が取り上げられて種々懇談会が開かれています。その年の秋には「劇と音楽の夕べ」と題し、三日間の学校祭（文化祭）が行なわれ、学生と教職員が合同出演して〝風の窓〟（神谷量平作）が講堂で上演されています。復員後間もない私も一役買わされて毎日熱心に練習を重ねたものでした。女子高が併設されてからも「劇と音楽の集い」と変り、バザー・食堂なども開かれ盛

り沢山になって、後年は各クラス対抗のスタンツ大会、ソフトボール大会なども加えられて益々発展し学生との交りの場が実ってゆきました。

戦災にあって学院の三春台校舎で授業を続けていた捜真女学校は、二十三年三月一杯をもって神奈川区中丸の地に帰って行き、翌四月、今迄の予科を廃して英語実務科、被服速成科という選科を持つ女子高等学校が誕生したのです。本四十五年十一月県立青少年ホールに於てシェイクスピア英語劇〝真夏の夜の夢〟第二十回公演がありましたが、その前身はこの二十三年秋英語劇〝ベニスの商人〟をもって始められたのが今なお引継がれているのです。今にして思えば当時は焼け残った体育館に黒幕を吊り絵を貼って舞台の効果を考え、衣裳も持ち寄ったものを工夫に工夫しての涙ぐましい公演だったのです。その頃ミセス・タッピングの指導のもとに女専レクリエーションクラブが活発な活動を続けており、十月には経済専門学校、工業専門学校（現在の大学経・工両学部）の学生と交換パーティーなどが開かれています。十一月には学院の近況を海外にP・Rする目的で、英文のカントウタイムズが完成し、以後二カ月毎に発行することになり、一部には英文科の教材などにも使用されて昭和四十年頃迄続いていました。同じ頃女専の修学旅行が計画され、初めは日光方面という声が多かったのですが、時期的におそく、寒さも厳しいとの理由で、急遽伊豆方面に変更したのです。列車のあと修善寺よりバスで土肥へ、一泊してから船で沼津に渡る計画。学生は希望に胸をふくらませはしゃいで参加しました。ところが雨女が多かったのか、バスで伊豆西海岸コースに入る頃は風雨の強い天候と変り結局往復共山路をたどるバス旅行となってしまいました。初めての長距離旅行だというのに残念なことでした。翌年は女子高一年江の島、二年箱根十国峠、女専奥多摩、別科油壺と計画され、後年には関西、四国方面へと順次拡大されて昭和二十八年頃には十和田湖及び北海道旅行と変っていったのです。この頃宗教的な活動としては毎日の礼拝は勿論、春は花の日、秋は感謝祭礼拝が持たれ、その都度捧げ物をもって養老院、孤児院へ学生・生徒の手で慰問していました（昭和二十六年十一月二十一日の慰問が読売新聞に報道され、今もその記事が残っています）。十二月には焼け跡に待望の新しい校舎（木造平屋建）も落成し、特に作法教室は当時としては立派な和風の教室で鼻が高い程でした。二十四年一月には家政学力調査（テスト）、保健学力調査、英語学力調査を文部省教育調査官により本校に於て行なったが、当時の実力は高く評価され、後日教員免許状無試験検定合格校に指定されたのです。その時の先生方のよろこばしい笑顔が今も目に浮んできます。

この年の夏より秋にかけてジュニアカレッジに関する懇談会が学校内外で開かれ、設置基準の研究討議がなされていました。

（つづく）

香報室

この欄は、卒業生の皆様の消息、感想文、詩、和歌、俳句、随筆等の発表の場として、用意いたしました。短大香葉会「香葉」編集局宛、次号への原稿を随時お送り頂きたくお願いいたします。

リーディ・実子

短大第一回卒業の古城房子さんを会長に、この度香葉会が発足いたしましたこと、心より嬉しく存じます。大学紛争もピークを越え落ち着きを取り戻しつつある今日この頃かと思いますが、やはり社会的、思想的問題の多い時、すっきりとまとまる意味においても、女専、女子高、短大、及び二部の卒業生が、独立して同窓会を組織したのはよいことだと思います。私達、同窓生は、学問の面で、又人格形成の面でも得る事の多かった事を感謝して、私共の師を愛し慕い、母校の発展のために何かの形でお役に立つために、一つになって活動する事が、最も望ましい事と思います。古城房子さんは、関東学院とは深い関係の方ですし、人格的にも能力的にも、会長さんとして最もふさわしい方と信じております。これからの香葉会の発展を期待しております。

（専英3・旧田中）

女専卒の皆様へ

中根　悦子

昨年の夏、小山郁子さんと、約一ケ月米国を旅行しました。目的の一つは、学校時代の友を訪ねる事でしたから、サンフランシスコで長嶋みさ子（平部）さんに声をかけられた時は大喜びしました。三人で、デンバー空港に降りたつと、ワグナー・みよ（柴田）さんがご主人や坊やと出迎えて下さり、その夜は学生の頃の想い出話で明かしました。四日間を共に過し、昼は車で見物、夜は語り続ける忙しさでした。

その後、私は娘を伴って、姉の故フラワー暁子（旧時田）が、かつて住んでいたトリドーの町を訪れ、フラワー家の人々と、お墓参りしました。郁ちゃんはお仕事の関係でフィラデルフィヤへ飛び、来合せたアンダーソン貞子（原）さんに会ったのです。皆とても元気に活躍しています。そして懐しい女専の方々に「よろしく」との事でした。

郁ちゃんが会社の雑誌に書かれた、楽しい旅行記の中から関係のある箇所だけ、抜粋しましたので読んでください。（専英1・旧時田）

小山　郁子

シスコの空港でばったりみさ子に会う。これから向かうデンバーで一週間世話になるかつてのクラスメートだ。戦後、アメリカに留学、二世と結婚、そのまま十数年住み着いてしまった人である、こんな時、レッキとした

日本人の私も、ごく自然に彼女と抱き合い互いにキスを交わした。これが全然キザとも何とも思わないからわれながら不思議だ。アタシって意外と順応性に富んでいるんだワなどと自分流に解釈している。無理に外国式を真似たわけではないのだから、そう解釈するより仕方がないのである。さてそんな訳で奇しくも昔の仲間、みさ子、悦子、私の三人が同じヒコーキに乗りこんだ。日本語と英語のチャンポンで楽しいおしゃべりが続く。ミーは本当にユーに逢いたかったヨ。まさかこんなひどいチャンポン語ではないけれど、いくちん、ガマンてナニてな調子の日本語健忘の友人の会話である。何かとご想像頂けると思う。

（中略）。ヒコーキを降り立つと、またまた懐しい美与が旦那様と迎えに来ていた。美与は私達より一年下の下級生。彼女が渡米して以来だから十数年ぶりというわけだ。彼ら一家はミズリー州のカンサスから、十二時間も車をとばして、会いに来てくれたのだ。

デンバーは東京にくらべ、相当に海抜が高い。一〇〇〇米程も違うのではなかろうか。うっかり忘れてしまったが兎に角、東京より空気も薄い、その上、時差に付きまとわれているから四六時中眠くて困った。デンバーは日本人が多く住んでいて、日本人街もある。古い小さな店が建ち並び、日本のほとんどの日用品が揃っている。インスタントラーメン、銘柄は東京で売られているものとは違うがまさしくラーメンである。米、勿論日本の米とは違う。ここコロラド州でとれたお米だ。カンサスで買うより安くておいしいからと、美与は三〇キロも買いこみ、旦那様に車まで運ぶようういいつけた。お風呂で使う軽石、主婦の友に婦人倶楽部。経理の佐野さんに頼まれた囲碁の本も、デンバーでみつけたもので高川本因坊の書かれたものの英語で、3ドルだったと記憶している。

東京から見ればちっぽけな町だ、だが買物に出かけるとなるとはるかに大袈裟になる。ショッピングセンターまでいちいち車に乗って出かける。車でほんの五分くらいの所だが。切手一枚、タバコ一個買うにもみさ子の家の近くに商店がないのである。私は切手を求めにショッピングセンターまで車を出して貰った。日本への航空便が何と高くつくことか。大平洋のはるか彼方、日本とおぼしき西の空に向っては私は大きくタメイキをついた。

（中略）

みさ子は、中学一年を頭に三人の子持ち、それも男ばかり。ご主人は数年前、若くして脳卒中で亡くなった。彼女は今、幼稚園の先生として活躍している。

デンバーの皆に、そして悦子とも別れて、いよいよハリスバーグに単身のりこむべく、朝の一番機でデンバーを後にした。

（専英1）

中野ノブ子

開校されたばかりの女専に第一回生として、私達が入学いたしましたのは、もう二十年以上も前のことでございます。当時の三春台校舎の英語科クラスには、終戦後再び勉学を志し、入学をして参りました者も何人か見られまして、その為生徒の年齢に相違はございましたが、クラスの中に、そして、学校全体に新鮮な若々しさが感じられました。しかしながら、上級生を持たない私達は、何事につけても先生方の御手を煩わすことが多く、教室と教授室との距離は、それはそれは近うございました。日々の礼拝から種々の行事に至るまで、皆なつかしい思い出ばかりでございますが、とりわけ、卒業寸前の「教員検定試験」は、忘れ難いものでございます。と申しますのは、この試験は幾度か延期されたばかりでなく、他校と一緒に行われたからでご

ざいます。しかし日頃の成果をここに表わそうと、皆よく協力して頑張りました。そしてこぞって合格出来ました時は、少し大形な言い方をいたしますと、第一回生としての責任を果たしたような感じさえしたのでございます。其の後学校も発展の一途を辿り、学生数八百名に及ぶと聞きまして、本当に嬉しうございます。

香葉会誌の発刊をお祝いいたしまして、拙い文をよせさせていただきました。

（専英1）

回想

宮沢　順子

先日学報を送っていただき、短大もはや創立二十周年を迎えたとのこと、夢のような気がいたします。立派な校舎、そして諸設備等々、ただただ感無量です。

私も学校を卒業と同時に短大の職員の一人に加えていただいた頃は、透き間風のはいる小さな事務室の中に、庶務課、学生課、教務課と一カ所にまとまっていました。今は事務長をかしらに各課別に窓口があって係長、係とされているようですが、当時は上市先生と二人で教務の仕事をしておりました。何分にも広大な敷地内に教室が点在しており、連絡に走るのも一苦労でした。想い出の輪は大きくふくらんでとても書きつくせません。

二十年とは長いようでも、私にとっては、ついこの間のことのように思えるのです。はぐくまれたよい伝統を守り身につけて今後の発展を心から願う一人です。

（被服速成科・旧安藤）

安村　正一

「それは世代の断絶だよ」という言葉が近頃人の口に不用意に上る——親と子、教師と生徒、管理する者とされる者の間に——民主主義の考え方は之を埋める筈だったのに。話し合えば分かる、否、分かる事に近づける筈なのに。私は最近民主主義が何かそれ以上のものに置き換えられて、お互を尊敬し合って民主的な努力をしようとする代りに、絶対に相容れまいとする考え方に立って攻撃して止まない人々が、多くなって来ているのに心痛む思いである。何が正しく何が正しくないかという価値観、キリストの愛の意味、理想と現実の相克等々を何度もひしひしと思う今日此頃である。

（短英二1）

山上　治代

香葉会の発足に際して、卒業生の一人として近況をお伝え出来るのを大変うれしく思います。卒業してから十八年、私共が学んだ時代にはまだ十年一昔などという言葉がありましたが、それからいうと学校は昔々の思い出という事になります。

学生時代はオトナシクて、きっと知らない方のほうが多かったでしょうが、今では二児の母親として、何とかこの住みにくい世の中の荒波を越えて進んでいます。結婚して七年も子供がなかったので、長男がようやく小学校の一年、下の子に至っては幼稚園に今年入った所で、これからまだまだ頑張らねばなりません。子供達には外国でも通じるようにと長男には薫（カール）下の子は麻理（マリー）と名づけました。

「すべてのことに感謝せよ」と教えられたことが何かにつけて心の支えになっているように思えます。そして学校時代がなつかしく思い出されます。年に一、二回はクラスメートと交友を暖めております。

今後の母校の発展と、よりよい姉妹が育ち社会に、家庭人にと、幸せの道を歩むことを願います。

（高家2・旧平川）

光島　洋子

Lavender's blue, Dhili dhili
Lavender's green,
When I am King, Dhili dhili
You shall be Queen.
Who told you so, Dhili dhili
Who told you so?
T'was my own heart, Dhili dhili
That told me so.

昭和二十六、七年頃、妙高スキー場の合宿で、先生や皆さんと歌ったこの可愛いい歌を覚えていらっしゃいますか。

今、私が住んでおります軽井沢には、このラベンダーの花が栽培され、その花を乾燥して匂袋を作り、私共の山荘では売っております。又あの頃、雪の上で皆さんと尻持ちばかりついておりましたスキーへのご縁が切れずこの冬より黒姫と云う所に、小さなスキーロッジを設ける事になりました。ここはかっての妙高山の隣りの山、そしてあの頃の常宿だった香風館が、近くにスキーロッジを移して来ておられます。こうして関東学院は私の人生の中にいつもほほえましい、若い日の思い出と共に離れず、在学当時培われましたヤンチャぶりは、頭に白髪のまざる今もなお消えず、生きる活気となっております。皆様もあの当時の発刺とした個性を活用していらっしゃる事でしょう。お話をしにお出かけ下さいませ。お問合せはＴＥＬ(02674)5—5622

（短英3・旧西原）

松岡　梅子

花ねずみのビーズのバックが鳴り出した三色幕屋。
ピリ、ピリ、ピリ、
何んだろう。
花ねずみは西洋葛の受話器を取った。
パッ、ストロボ光る。
こちら Raten Fleur どうぞ。
花ねずみは舞台中央で応えた。
タイプライターのキイワードが星型になって飛び散ると、いつものように花ねずみは鏡に写っているのを確認し、ナポレオンに貰った呼鈴をならし座りなおした。
雇い婆マリヤの照明が「ゼラチン切らしてスミマセン」と降りて来る頃、
紐育市長が特にすすめたパンタロンお召しの花ねずみはすまし顔して、モンブラントンネル、一七、〇〇〇米に大写し。
また、所によって紙吹雪
「バッヂを襟につけていますか？」
「はい、瑠璃色のをつけています」
ニキッと動けば、そのままオペラ座界隈を、花ねずみ、白塗りの一輪馬車にのって翔んでいる。
ピリ、ピリ、ピリ、
花ねずみ、王朝風の仕草で言語発生装置に口をあてる。
「今マイムの公演やってます」
花ねずみコクリと頷く。
「先月、独国ヴォルフラム氏のレッスンを受け、マイムの個としてのフィロソフィと情熱に共鳴しました」
花ねずみ両足並べて上を見る。
「作品表現の内なるものは創ってゆく折、あたらしい自己の生き方へ結びつき、拡がっていくものです」
ONE PUFF, TWO PUFF. 金襴緞子の糸がほどけて長い水玉になると、
「マイムは言葉で代用できぬものを、体で表現する果物です。言葉で代値出来るパントマイムとは、ちょっと違います。肉体の文字言語は、感覚的拡散と祈りとで、果てない記号の抽象へと拡がります」
台詞がとだえて電気ボンボリ大きく右へ廻り

花ねずみ、そのまま舞台中央。
「形のない形、蝶になるには、無になって蝶に。どれだけ出来るでしょう。日常と舞台、観客と舞台は、あたらしい関りあいを持ち、分離せず、変容して行きます」
すると、花ねずみの指は十二宮にかかわり、
「舞踊も、状況と器官を教えてくれます。仕舞もこころを。ジャンルも又あたらしい崩壊を見ます」
客席が次第に明るくなって、
「神の使命のもと建てられた学び舎に在ったこと、永遠、絶対についても、小さきものの全うすべき事を導びかれたこと、凡てのことを識ろうとする時、どれだけ素晴しかったでしょう。動きのフイロソフィも限りなく数々の試練を越えて在るものです。どうしても、私でなければならないもの」
花ねずみ矢車フリルの本と、今配られた催しもののチケット抱えて、市松模様は庭の上。
騎士かくしてチェックメイト。
負ければキンキラ薔薇の色。
行く日過ぎれば、セブンメイドでワンアップモーム読み読みブリッヂゲーム、と蓄音機バネ捲けば、時計止まり花ねずみ丁寧に御辞儀する。

（短英4）

関東学院の想い出

金子　武人

朝鮮動乱たけなわの昭和二十五年に私は横須賀海軍基地シップストアーに勤務した。
進駐軍と呼んでいた頃であったが、私達は当時を朝鮮景気と呼んだ。食糧も着る物もない時代でしたが、米海軍基地の中は物資が豊富で、つぶれかかった日本の会社へ勤めるよりも給料の方はずっと良いし、土、日曜の連休にも魅力があった。旧大日本帝国海軍が誇った大通りの両端には米人相手の人力車が並び、朝の勤務時には長い長い列を作って基地従業員が勤務していた。その数は推定二万人といわれていた。町には横文字の店が見られ、横須賀のドブ板通りが有名になったのもこの頃だ。アメリカ人の職場に入っても敗国の日本人はいつも馬鹿にされているようで、どの職場も外人優遇で、英語を知らないと一割も二割も損をする。六浦に関東学院が移って来たのもこの頃で、旧日本軍隊の兵舎をそのまま校舎にしており、すきま風が身にしみた。今の関東学院のすばらしい校舎とは比較にならない。その敷地の一角には、昔の神中（神奈川一中）があり、日本人の英語熱はますます盛んになって来た。キリスト教の学校が栄えたのもこの頃で、英文科をもつ関東学院短大には、横須賀や追浜のネービーに働く優秀な人材はネービーの金で通わせ、語学を修得させた。その頃が短大英文科二部が一番栄えた時代であろう。廊下はいつもにぎやかで、片隅ではキザな学生が英語で会話している。そのときはあの人英語ベラベラだなあと思った。シェイクスピア劇もその頃が盛んで、初めて県立音楽堂で上演した。私はロメオとジュリエットに出演して二言三言しゃべったのを覚えている。光畑愛太教授が印象に強く残っている。ライオンというニックネームで本当によく吠えた。シェイクスピアの大好きな教授で、関東学院のシェイクスピア劇の草分けである。発音のうるさい先生で、自分の思うようにならないと良くほえた。犬がほえるのでなくライオンがほえるのだから恐しい。だからセリフを一生懸命におぼえた。セリフに夢中になると発音がわるくなる。Japanese English になると大変だ。とたんに〝雑斗〟などと黒板に書かれる。ねむいのなんか忘れて緊張の連続だ。楽しい想い出は光畑教授を囲んで岩原スキー場へ民宿した事だった。荒崎の海岸でのキャンプで柳生直行教授の Clem-

entine の歌が印象的である。柴三九男教授も我々生徒の中へよくとけ込んでくれた。

荒崎のときでも、丹那盆地への見学、鎌倉への散歩。丹那盆地はらく農の盛んなところで、しぼりたての牛乳などおいしかった。学生時代を有意義に過ごしたが、授業中の態度はどうだったろう。何を学んだのか見当がつかない。いつもきちんとした背広を着て、一流大学でも聞けないという英文法、アメリカ文学の講義をうけたが、劣等生だった私には全然わからない。テストのできるはずがない。だから月謝を一番支払った生徒である。その点私は自慢している。ちゃんと証拠はある。一度に七教科の追試をして、その追試料は最高だった。光畑教授にはよくおこられた。ネービーで覚えたBroken English をつかって又 Gettysburg Address が暗記できなくて……発音にはいつもきびしかったが、生徒達の間では信頼されていた。教室の授業中、私のすぐ後の席に関西出身の人がいた。光畑教授にいくらなおされても関西弁が抜けない。その生徒いわく「私、関西者で……」と言ったとたん光畑教授の発声一番〝英語に関西弁が関係あるか！〟皆が爆笑した事があった。数々の思い出を残して私は三十三年の三月十四日卒業した。適当に勉強して、適当に楽しんで、シェイクスピア劇で結ばれ幸せな家庭を営んでいる仲間たちも数多くある事を知っている。私はうらやましかったが、私にはそのようなロマンスはとうとう訪れなかった。等々しているうちに私も立派に全課程を修了し教職の免許（外国語中二普）をいただいた。横須賀ベースの生活も遠い昔の経験となり、今では横浜市のある公立中学校で英語の教鞭をとっている。教師生活はまだ未熟で、毎日の指導法に病んでおります。一生懸命に教えたつもりの関係代名詞も、テストをしてみると生徒たちはちっとも出来ない。今年も三年生を担任しているので来春には高等学校へ送らねばならない。思うように入学してくれればと奇跡の訪れるのを待っている。まごまごしているうちに横浜市の中学に奉職をしてから十年を迎えようとしている。学校時代いい加減な勉強をしていたので、そのような教師のために、横浜市立大学で横浜市教育委員会が主催して行なわれる英会話とLL機械の実技研修会にはいつも奥田妙子さん（関東学院短大英文科出身）には世話になっておりました。今年からは彼女の後輩の岩沢さんになりましたが、そのときにはアメリカ文化センターから数人の外人婦人を招待します。それが我々教師の唯一の英語会話のチャンスなのです。社会に出ても我々ESSの仲間たちはいつも仕事の上で影響をしている。

今度ハワイ旅行を計画しているようで、私も是非行きたいが、教師の安月給で二人の娘を持ち余裕がありませんので早く余裕をつくりたいと思っている。そしてESSの先輩、後輩たちと知り合って仲間を大切にし、仕事の上で役立たせて行きたい。私も仕事の性質上一回は世界の国々を廻ってみたい。どうぞハワイへ行かれる皆様よくその土地の特徴をつかんでお土産話を聞かせて下さい。

私の近況は三年前に結婚し、二人の娘をかかえながら、毎日夜になると十数人の中学生が自宅に来て英語の学習指導をしており、毎日忙がしい日々を送っております。そろそろ同窓の仲間と会いたくなって参りました。

（短英二6）

佐藤　恭子

長年の願いでありました香葉会発足お祝い申し上げます。

その第一歩として、この会誌の発刊であり大変嬉しく思います。短期大学在学二年は、卒業して年が経るにしたがって、一層短かっ

た事を思い知らされます。

二年間が終ると、ある人は地方へ、又ある人は家事専念等……。それぞれの道を進む方々の近況を知らせあい、その上なかなか訪れることの出来ない母校の発展ぶりを会員に知らせる最も身近な会誌として、そして一つのパイプとしての役割を充分発揮できるよう、会員共々育てていきたいと祈っております。

（短家7・旧本多）

志賀　ミチ

香葉会が発足し、年一回の会誌が発行されるとの事、本当に嬉しうございます。香葉会発足に到る迄の関係者の方々のご苦労、又会誌編集委員会の方々のご苦労を思い、心から感謝申し上げます。

会誌を各科各層よりの便りによって構成すると言うのは素晴らしいと思います。思いがけない所に同窓の友を見出し、便りのとだえていた友の近況を知る等は、思っただけで楽しくなります。これは数多い卒業生の交流を深め、母校発展の助けとなると思います。

私事につきましては、現在、私は三才半の女児、一才半の男児の母としてもっぱら幼児にのみ接し、幼児の世界に親しんでおります。手を焼かせる子供達ではありますが、幼児と共の生活は楽しいものでございます。又学ぶ事も多いものでございます。もう少し子供達の手がはなれたらもっと積極的に古い友人に会ったり、同窓の集りに出たりする事を楽しみにしております。（短英9・旧白山）

羽田　高義

「香葉会」会誌発行にあたり「なにわ」の地よりごあいさついたします。

万博は世界各国の人々に直接触れることの出来た、そして、府立茨木高校一年の長女、市立南中学校二年の次女（横浜にいれば関東学院の生徒かも?）にとって、絶好の語学練習場でした。本当によかったと思っております。

わが家は只今全員学生です。家内は和服コンサルタント研究生、私は近畿大学通信教育法学部の学生です。工業—英文—そして法学と、多忙の仕事の合い間に四十の手習い。いくつになっても学生は楽しいものです。

（短英二9）

香葉会会誌 発刊にあたって

大束　美夫

香葉会の発足に当り、第一回の会誌発刊お目出度うございます。燦葉会という大きな規模から独立し、香葉会というこじんまりとした会になったことは本当によろこばしいことと思います。何か自分達のより身近に出来た会という気がいたします。今までは卒業した人達が自動的に燦葉会に入り、総会があるとその決定事項に対し、自分の名前を委任してしまったというだけで、僕もその例にもれなかったと思っています。それというのも、余りにも会が大きすぎて、その会に於ける自分という存在がどこにあるのか、又自分というものをどこにおいたら良いのか全くわかりませんでした。これでは出席しても意味がなかったのです。しかしこのような状態から今度独立したことは、本当に私達にとって短大というものをより身近に感じとることが出来ると思います。諸先生方や先輩・後輩の人達と一層の親密感を得ることは勿論、総会、同窓会にも気楽に出席できると思います。去る六月の香葉会設立総会にも、多くの諸先生、先輩、後輩に混って、二部を卒業しました我々男子学生数人も、てれくさいというか何か多少の抵抗はありましたが、すぐにとけ込め、楽しい午後の一時を過せたのも、このような身近な会に接したからと思っております。これ

からもますます意義ある香葉会になられますよう微力とは存じますが、努力をもって積極的に協力していきたいと考える次第です。今後の香葉会の発展を心からお祈り申し上げますと共に、発刊にあたられた編集委員および関係者の方々に心からお礼申し上げます。

（短英二13）

国文科の思い出

岡沢　愛子

私が国文科といって一番に思い出すのは国文研究室です。研究室といっても私がいた頃は、先生方の机の置いてある所と研究図書や学生の自習用の机が置いてある所とを書棚で仕切っただけの部屋でした。それで先生方の声は学生に筒抜けでした。私は家では試験以外ほとんど教科書を開けず、授業の始まる前に学校に行き、国文研究室で予習するのが常でしたので、常連の一人でした。研究室の奥では先生方がいつもお話しをなさっていました。私はこのお話しを聞くのが大好きでした。

先生方のお話しは文学に関するお話しの時もありましたが、私が今憶えているものは殆んど、それぞれの先生方の個性に溢れる世間話し風の楽しい語り合いでした。私はそれを聞きながら、それぞれの先生方の個性に触れたような気がしました。学問研究とは又違った面の先生方の個性に触れる事ができた国文研究室。とても懐かしい場所！関東の国文科のよさが全てここにあるように思われます。

（短国1）

峰　佳子

秋が深まり寒さが増すとダンスパーティの季節になるようです。私達の短大でも、学友会の恒例行事の一つになっていました。役員となった私は、その年の行事にやはりダンスパーティを加えました。十四人の役員は、勿論ダンスパーティを主催した経験もなく、昨年度の書記録や会計簿と首っぴきで計画を練りました。何を始める時もそうですが、いざとなるとめんどうな仕事が山積みで途方にくれましたが、とにかく日時、人数の把握が先決でした。何といっても女の子、武器は微笑みと遠慮がちな口調だけ。十四人がいくつかの担当に分かれバンドの手配、会場の決定、当日の進行等、パーティ券もデザインにすったもんだして決定し、売るのがまた一苦労。皆旧友が総同員されたことでしょう。招待状の発送、ダンス講習会と全て準備が終ったある日、家庭教師を終えての帰途、役員の一人が青い顔で立っていました。こちらで決めたダンスパーティ開催日と会場の日程に一日のずれがあるということなのです。同じ会場を借りに訪れた学部の学生がそれをみつけ、知らせに来てくれたのです。近くの喫茶店で事情を聞き、十一時過ぎまで対策を練りました。眠れない夜でした。翌日朝早く学校へ行き行動開始です。発見者である学生と休講にぶつかった二人が乗り込みました。この時程こまめにとった記録が役に立ったことはありません。○月×日何時頃、誰々が電話、会場は誰々が応答と、交渉経過をたどっていきました。ここで問題だったのはこちらから開催日時をずらして欲しい、という電話があったという会場側の主張、ずれた日時が会場側の都合の良い日だったことでした。話し合いの結果、予定通りの日時に開催できました。

当日、英文科の浅田先生、前学友会々長さんの姿も見え、盛会だったダンスパーティは多数の人の総力から生まれたのだと喜ばしく思いました。

今だから言えるダンスパーティの裏話でした。

（短国1）

各科だより

英文科

現在の短大館の一部が昭和三十七年に建ったとき、英文科としての最初の施設である語学ラボラトリ（三十席）ができあがった。個々の学生がテープ・レコーダー（当時は磁気円盤使用）を使って練習できるこの設備は、一にも二にも練習の必要な語学の習得には大いに役立った。学生数の増加に伴ってその後増設し、現在は三十席のものが二室と八十席のヒヤリングのみの設備があるので、数の上では一応足りるとはいうものの、資金面での事情もあり、小規模のものとしてスタートしたので、あまり機能的な配置とは言えないし、準備室なども手狭で、教材用のテープなどの保管場所も不足しているので、今度増築される際には長年計画に基いた設備が欲しいと思う。

英文科の学生が自由に辞書や参考書を利用して勉強できるように、英文演習室が設けられたのは昭和四十三年のことであるが、現在約二千冊の書籍があり、整備拡充に努めている。また、タイプ教室には現在三十台の英文タイプライターがあり、学生がタイプの授業やその準備・練習に活用している。

古い木造校舎の時代には英文科の学生が一・二年合わせて百名に満たないこともあったのが、現在ではその四倍近くもいるので活気が出て来たのはよいが、以前には大体覚えていた学生の名前も最近はおぼつかない。前には（国文科ができる前）自分が顔を知らない学生は家政科の学生と思えばよかったのが、この頃では英文科の学生でも名前と顔が一致しない。学生の方もそれを承知しているのか、道で会ってもよそよそしい場合もある。

現在、私のほかに、宮川喜代江、徳永透、加藤紀子、御園和夫の各先生が専任として学生の指導にあたっていらっしゃるが、このほか、以前専任であられた相川高秋、時田信夫柳生直行、小滝奎子、小玉晃一、浅田寛厚の各先生が非常勤講師として教えておられる。このほか、非常勤講師の菊地庄吉先生は前記の御園先生と同様卒業生である。また、現在副手として英文科に勤務している新海浜子、奥田妙子、佐藤みさ子の三嬢も卒業生である。このように卒業生がいろいろな面で母校に協力することは私学にとって望ましいことだと思う。

（文責・小玉敏子）

家政科

昨春家政科が専攻分離して家政専攻、食物栄養専攻となり、ご生前坂田先生も特に念願しておられました栄養士養成施設としての発足をみるに至り、来春いよいよ第一回生を送るはこびとなりましたことは、家政科の歴史の上に、また短大にとりましても喜びにたえない次第でございます。

またこれにさきだち、長年懸案の理科学実験室も完成し、現在白衣の学生が実験にとりくんでいる風景は、戦後のボロ校舎時代、困苦欠乏にたえぬかれた先輩諸姉におめにかけたい思いがいたします。

これらのことのためにご就任以来、なみなみならぬご苦心、ご尽力をいただきました方が、現、家政科長であり、学長である林淳三先生であります。

この度の家政専攻は、今迄の家政科を検討

して内容を充実させたもので、今後更に家政科のビジョンともいうべきものを織りこみ、一段と前進すべく計画中でございますが、今回は新たに発足した食物栄養専攻について主に異る点をのべたいと思います。

以前と同様、家政専攻で教職をとった場合母校等に教育実習をお願いして出かけると同様に、食物栄養専攻でも校外実習と申しまして一年次の終りより二年次の後期にわたり、事業所、病院、保健所、小学校の四ケ所にて各一週間ずつ計四週間、分散して臨地訓練をうけ、その時期は夏休みにもかかって相当きびしい実社会—現場での訓練であり、これを通過しなければ栄養士の資格は取得できないのであります。

これにさきだち一年次の後期には見学があり、他の科は休みである週末の土曜日も、これらの準備等のために年間を通して、ほとんどあてられます。従ってこの方の関係の先生方、事務局は大変なわけです。

来春は定員増をいたしますので更に、家政専攻と共に多忙となりましょう。

当初より家政科発展のために、尽された白山前学院長、相川前短大学長、桧垣先生方もお元気です。

全国および海外に居られる皆様、どうぞおひまの折には是非おでかけ下さいまして母校発展の姿をご覧いただきたく、遙かにご健康とご多幸を祈り、今後のご協力をお願い申し上げます。

（文責・井口安喜子）

国文科

国文科は昭和四十一年四月に発足したばかりなので、同窓生の数は英文科や家政科にくらべて多くありません。それに、その人たちは国文科学生の研究発表誌「平潟」（ひらかた）を通して国文科の現状について、或る程度の知識をもっておられるので、この文は英文科や家政科を卒業された同窓生に、国文科を紹介するという狙いで、書くことにします。

現在、国文科は専任教員六名を中心に、さらに青山学院大学、鶴見女子大学、東京大学、東京学芸大学、東京女子大学、二松学舎大学などからも先生方においで頂いて、充実した授業を続けています。

国文科の授業でもっとも自慢できるのは国語演習でしょう。毎月一回作文を書いてもらいながら文章の書き方・物の考え方を指導してゆくこの授業は、文章力・思索力の不足している現代の学生には絶対に必要なトレーニングだと思います。一クラスの人数も二十五人ぐらいで、細かく眼がとどくように工夫しています。

また、国文関係の専門書を集めている国文演習室の隣に教員控室があって、学生たちが先生方に接触する機会が多くあります。先生方の学生一人々々に対する配慮の深さは格別なものだと言い切ることができます。

文化は活字を通して伝えられてゆくよりは、人間から人間へ伝えられてゆくのが正しい筋道なので、教育の場では人間から人間への関係がとりわけ重視されるわけですが、それは充分に実現されております。

だいぶ、自画自賛が続いてしまって、聞き苦しく思われる方もあるかもしれませんが、新設の国文科が充実した教育によって関東学院女子短大の発展に寄与していることをお知らせしたく、敢えて書きました。

（文責・岡松和夫）

母校ニュース

◇専任教員

—ABC順—

一般教育担任

安藤寿々代・服部千恵子・井上裕子・望月享子・佐藤三郎・①柴三九男・島村環・下田哲

英文科担任

池田ヤマ・加藤紀子・②小玉敏子・宮川喜代江・御園和夫・徳永透・V・フロップ

国文科担任

桑川光樹・桑川定一・③大城富士男・岡松和夫・杉野要吉・山下登喜子

家政科担任

④林淳三・桧垣好子・⑤井口安喜子・笠木茂伸・成田汀・佐々木摂子・菅原紀子・⑥鳥越ノリ・鵜島修男・渡辺紀子・山口和子・山下多恵子・吉田博

◇同職員

—ABC順—

春田宏子・細田昌子・⑦上市二郎・片岡靖子・近藤節子・益川良子・松林朝子・松本久子・諸橋和子・中村英夫・布谷美知子・⑧大河原幸男・奥田妙子・佐藤みさ子・新海浜子・陶山正代・田中順子・角井輝雄・土屋和子・内山順子・吉村昌久・座間弓子

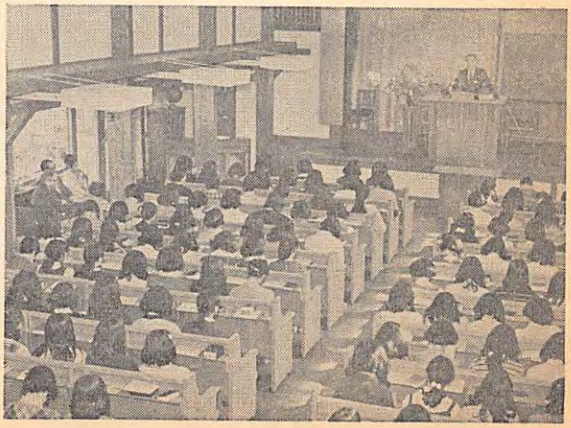
①一般教育主任②英文科長③国文科長④学長兼家政科長⑤食物栄養専攻主任⑥家政専攻主任⑦事務長⑧事務課長

◇リトリート

「リトリート」という言葉を、卒業生の皆さんは、夫々があるなつかしさを以て想い出されることと思う。私もこの短大に来て以来本学の最も大きな行事の一つとして、全学生全教職員が参加するこのリトリートに、色々な意味で想い出をもち、又、希望をもっている。

短大の発展により、科が増え学生数が増大して、リトリートも変化して来た。昔のいわゆる修養会的なリトリート、それはそれなりに当時は意味深いものであったに違いないと思う。一、二年生合同の科別で行なわれた時もあった。現今は、春に一年生（英、国・家の二つに分ける）秋に二年生(分け方は同様)という形態で、一年生には、新入学のオリエンテーション、二年生には、卒業後の人生の指針を考える、といった原則的な方針のもとに、夫々プログラムが組まれている。

年々、学生達の考え方が変ってきている。天城山荘も大きく改築された。真摯な信仰の証しに耳を傾け、レクリエーションに興じ、親睦会に笑いころげるといったリトリートも、既に過去のものとなりつつあるかも知れない。我々も、多大の努力を傾けたあげく、これを今後も続けてゆく意義があるのか、という深い虚無感におち入る時もある。しかし自己の要求が満たされることのみを願い、外のかしましさへの対応のみに心をうばわれ、外面的・世俗的な生活の幸福追求の中に、魂の



深い悲しみ、貧しさを感ずる現代にあって、さわやかな陽光、静かな環境の中に一歩退いて自己自身をみつめる時をもつことにより、やがて秋が深まり、きびしい木枯しが木の葉を吹き払う時に、我々の生の果実がみのり豊かにその姿を示す時があることを信じて、真の意味に於ける「瞑想」、「孤独」、「沈黙」、そして、「交わり」、「対話」を生み出す機会としてのリトリートをめざして、努力を重ねてゆきたいものと考えている。

（宗教主任　下田哲）

◇クラブ紹介

▽軟式庭球部―春秋季リーグ戦では好成績をおさめることができなかった。しかし、軟式庭球部を通してでなくては、味わうことの出来ない、規律、忍耐、協力、という精神を目的として、二年生八名、一年生六名計十四名が毎日練習・春夏合宿に励んでいる。

▽バトミントン部―春季リーグ戦で四部の四位となり、秋季リーグ戦は、好成績をおさめることはできなかったが、三部昇格を目ざして、部員一同、毎日の練習に励んでいる。

▽卓球部

毎年十名程度の部員で家族的な楽しいグループです。年五、六回の試合があり、忙しいなか、卓球で一汗流してから帰ります。合宿は年二回で、去年の夏は学部と栄養短大（県立）と合同合宿でした。皆二年間という短い期間を有意義に過ごしております。

▽籠球部

春期神奈川リーグ戦、関東女子学生バスケットボール選手権などが主な試合となっています。部員数の少ない中で毎日練習に励んでいます。

▽ＥＳＳ

私達ＥＳＳは、日常会話、鎌倉ガイドを中心として活動しています。また、県下十大学のフェデレーションにも参加し、年に一度のスピーチ・コンテスト、ディスカッションも行なっています。しかし、部員数の少ないのが悩みの種です。

▽ワンダーフォーゲル部

自然の山野を遍歴し、自然に親しみ、人とのふれあいを通じての人間形成を目的としている。年に八回程度の山行、神奈川県下八大学からなる連合の一員として参加し、ワンゲルの啓蒙発展に寄与している。ワンゲルの本質を探るのが当分の課題である。

▽美術部

私達美術部の一年間の活動としては、学外活動として燦美展、学内においては大学祭、部展を通し、毎日活動しています。この度、一年生は、役員改正にともなって新たな意欲を燃やしています。今後の活動方針としては、学内活動の充実、学外においては展覧会の回数を多くしたいと思っております。

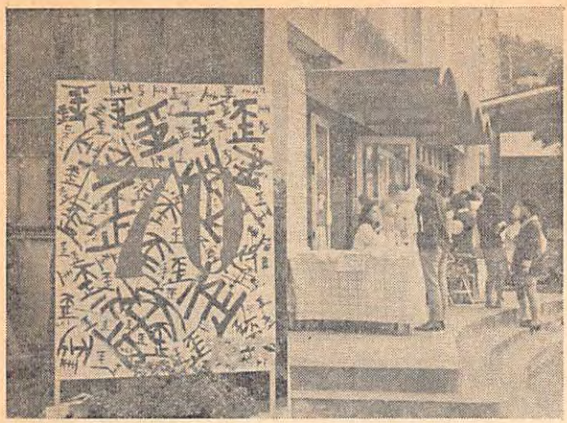
▽ユース・ホステル・クラブ

旅というものがより多くの若者の間に広まってほしいという目的からこのクラブが生まれました。しかし実際は、Ｙ・Ｈ運動の推進というはっきりしたものに徹しているわけで

はありません。我々クラブ員自身が旅の良さを確かめ、その手段としてのユース・ホステルという建物について、正しい目で見る事ができるよう、少しづつ調査し、話し合い、知識を大きくしようという活動をしています。

その他、同好会、愛好会としては次の通り。

弓道、硬式庭球、自動車、フィギュア・スケート（以上体連関係）。写真、琴、茶道、ハイキング、観光事業研究会、演劇、フラワーデザイン、書道、国文研究、ハワイアン、放送研究、エレクトーン、映画研究、フォークソング、混声合唱（以上文連関係）。



☆短大祭をふりかえって

今年の短大祭は「ひずみ」というスローガンをたてました。いつの時代にも、人間はそれぞれに時代の苦悩を負って生きてきたことでしょうが、それにしても、現代の住みにくさには特別のものがあるようです。人間のためにつくったものが反対に人間を苦しめるという、こう高度の機械文明の中で、私達はどうすれば人間性を守り、育てて行けるでしょうか。「ひずみ」は、いたるところに現われてきています。学生と学生の間の、また学生と教師の間の、もっと身近には親と子の間の亀裂や断絶も、しばしば問題になっています。「学生生活における歪み」というサブタイトルをつけた第一日のシンポジウムや、大学文学部の三浦先生を講師にお招きした三日目の講演会など、いずれも、この短大祭を契機として、以上のような問題を皆で考えようというプログラムでした。スナックや喫茶など模擬店も多く、にぎやかで楽しい四日間でしたが、それを単なるお祭りさわぎに終らせないよう、私達としても努力してきましたし、また実際、各クラブの展示や研究発表など、充実した内容のものも多かったと思います。

最初は、どのような短大祭にするべきか、どのようにしてそれを進行させるか、またどのような反響があるか等、さまざまな不安や当惑もありましたが、それらも私たち実行委員のメンバー皆で力をあわせてどうにか解決することができました。その背後に、参加した全学生の協力があったことは言うまでもありません。

今年の短大祭が、どのように受けとめられたかは私たちにもわかりませんが、これからの短大祭は今年以上に、在校生全員の参加を得て、一段と充実したものであってほしいと思っております。（45年度短大祭常任委員会）

評議員氏名

竹村久子（専英1）出栄美子（専英2）北川光子（専英3）佐藤久子（専家1）古城房子（短英1）青木千恵子（短英2）柴田君子（短英3）松岡梅子（短英4）中島はま子（短英5）安部純子（短英6）行木康子（短英7）村上節子（短英8）大高あゆみ（短英9）梁恵霞（短英11）川崎淑子（短英12）新海浜子（短英13）田瀬恵美子（短英14）大窪光子（短英15）川口香子（短英16）今井桂子・宮田蓉子・三木和（短英17）宇野美恵子・横森訓子・関口とも子（短英18）石田禎子（短家1）江成千恵子（短家2）西村恵子（短家4）横溝喜代子（短家5）山本吉枝（短家6）佐藤恭子（短家7）金子貞子（短家9）相吉典子（短家10）八木智恵子（短家11）高橋尚重（短家12）中川道子（短家14）稀代暉子（短家15）三村勝美（短家16）金子直江・依田かほる（短家17）加藤猶子・守屋久子（短家18）岡沢愛子・岩崎美穂（短国1）蜂谷弘子・中村真金（短国2）光畑清（短英二3）松本佳子（短英二2）伊藤精彦（短英二3）今木義夫（短英二5）渡辺孝・青木武志（短英二6）小島美浹（短英二7）小島栄松（短英二8）太田正道（短英二9）松山信子（短英二10）杉本博司（短英二11）小柳和子（短英二12）鈴木松雄（短英二13）米村祥恵（短英二14）平塚圭子（短英二15）加藤日出子（高英）山上治代（高家）会計監事松本政子（短英二4）

坂田　祐先生追悼講演会

☆とき　昭和46年1月27日（水）午後6時
☆ところ　市民ホール（旧横浜宝塚劇場）
☆追悼　白山源三郎・水船六洲
　　グリークラブ
☆講演　森　東吾氏（阪大教授）
☆懇親会

上記のように予定されていますので
多数お誘い合わせの上ご出席下さい。

事務局へご協力を

私達が現在香葉会事務局のお手伝いをしておりますが、会員の皆様にお送りした年賀状・学報等学校よりのもの、ならびに総会通知などが多量に返送されてきています。無駄なくお送りしたものはすべて無事にお手元に届くよう次の点に関しご協力をお願いします。

イ、結婚などにより住所・姓名が変更の場合は必らずお知らせ下さい。

ロ、転居並びに住所表示変更の折も必らず新住所をお知らせ下さい。

ハ、知人の変更を知った場合友人の消息としてご連絡下さるようご協力下さい。

益川　良子（短国1）
松林　朝子（短国2）

表誌デザインの紹介

関頼武氏・春陽会々員、非常に美しい色彩とユニークな画風で将来を嘱望されている方で、最近は「国際形象展」に招待画家として出品されました。夫人は短英二回卒の（旧田村）美代子さんです。

執筆者の紹介

女専より短大の二十四年余の長い歩みの中において、一時期を学生として過された皆様にはお顔も知らない先生方もあることと存じ、執筆者を少しでもよく知っていただくため編集部では女専より今日迄続けて在職の先生を除いて次に簡単に紹介させていただきます。――氏名はＡＢＣ順――

相川高秋氏　初代の短大学長、本会顧問、現在は大学文学部教授で短大の講師、日本バプテスト同盟理事長、各方面への講演に毎日ご多忙です。**林　淳三氏**　二代目学長、農学博士、多年の女子教育経験者、専門は栄養学・食品学、現在は学院法人の理事。　**兵藤正之助氏**　四十二年度より大学文学部教授に就任、引続き短大の文学、哲学をも教えています。　**井口安喜子氏**　二十九年春より中居夫人の後を引き継がれて調理学担当、現在食物栄養専攻主任として活躍中。　**門根静子氏**　女専短大の体育の先生、現在姉妹校の捜真に勤務、昔と一寸も変らぬ若さで張り切っています。　**加藤亮三氏**　学院高商一回卒で燦葉会会長、朝日事務器の社長の傍、学院法人の役員も務めるタフな方。　**小滝奎子氏**　旧国広先生、英国に四年半程滞在され現在は大学文学部教授、短大へも毎週顔を見せられ昔と変りません。　**小玉敏子氏**　英文科の科長、十一月末迄は学長補佐を兼務され多忙な先生、ご主人の理解があってこそ。　**中居静枝氏**　旧角田先生、二十九年春に退かれてからも宗教的な各方面にご主人と共に活躍され同窓会の集りには必ず出席されています。　**岡松和夫氏**　国文科増設時着任、専門は中世文学、並に仏文研究家、作品が『新潮』八月並十一月号に掲載、乞ご一覧。　**園部治夫氏**　フェリス女学院大教授に就任されても本学を愛され、英作文を一手に、ご多忙の中を裂いて担当されています。　**時田信夫氏**　三十一年に大学に移られて後も短大の教鞭を取られ現在文学部教授、本文の叙勲は勲四等瑞宝章です。　**柳生直行氏**　大学文学部教授、三十三年に大学へ移られてからも本学の為に公私共ご支援下され講義は英文学を続けておられる方、奥方は香葉会々員。

編集後記

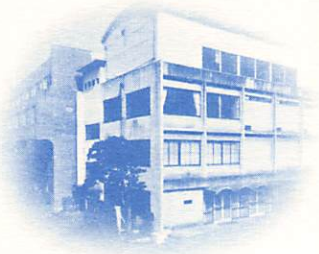
六月二十八日、香葉会誕生、喜びの声が紙面を通して感じられ、編集委員大いに勇気づけられました。ご多忙の中をご投稿くださった先生方、会員の諸兄姉に厚くお礼申しあげます。会誌香葉の中心的存在である「香報室」を、卒業生の交歓の場として更に発展させる為に多数ご投稿ください。

この会誌が母校と同窓会の発展と共にありますように、心から願っております。（K・N）

こんなかたちの創刊号になりました。感想はいかがですか。当初、集った原稿用紙をビンでとめ、印刷屋さんに渡せば済むことと、簡単に集長をお引き受けした。ところが豈計らんや、聞くとやるとは大違い。さてはダマされたかと気づいた頃は遅かりし。幸にも、卒業生の皆様、学内外教職員の皆様のご協力と、バッ群編集陣の一致団結無病息災の奇蹟のたまものとして、ここに「香葉」誕生の運びとなりました。

（K・M）

関東学院女子短期大学



●昭和四十六年度入試要項

英文科（語学・文学コース）
国文科
家政科（家政専攻 食物栄養専攻）

出願期間
第一期　二月一日（月）～二月十日（水）正午必着
第二期　二月十七日（水）～三月十一日（木）正午必着

試験日
第一期　二月十二日（金）
第二期　三月十二日（金）

合格発表
第一期　二月十六日（火）
第二期　三月十五日（月）

試験科目
英文科　英語Bの外に、国語（現代国語）と社会（世界史B、日本史）の中から一科目選択
国文科　国語（現代国語、古典Ⅰ）の外に、英語Bと社会（世界史B、日本史）の中から一科目選択
家政科　国語（現代国語）の外に、社会（世界史B、日本史）と理科（化学B、生物）の中から一科目選択

〈推薦入学〉

出願期間
一月十一日（月）～一月二十六日（火）正午必着

面接日　一月二十九日（金）

合格発表　一月三十日（土）

☆お問い合わせは本学入試係へ
〒二三六横浜市金沢区六浦町
入学案内　〒共二〇〇円

家政科・食物栄養専攻（栄養士養成課程）定員増申請中

香　葉　第１号

昭和45年12月25日㈮印刷・発行
関東学院同窓会・香葉会
代表者　古城房子
横浜市金沢区六浦町4834　郵便番号236
関東学院女子短期大学内
電話《横浜045》781－2001（代表）
781－0148（直通）

印刷所　西岡印刷㈱
横浜市南区吉野町５－22
（251）7011・7018

関東学院同窓会・香葉会誌